

大田区

交通政策基本計画

リーディングプロジェクト実施計画

(平成 31 (2019) 年度～平成 35 (2023) 年度)

【平成 31 (2019) 年度版】



目次

0. はじめに 大田区交通政策基本計画について	3
1. リーディングプロジェクトの位置づけ	4
1-1 リーディングプロジェクトとは	4
1-2 リーディングプロジェクトの推進	5
1-3 計画間の整合性	5
2. リーディングプロジェクトの選定	6
2-1 平成 30(2018)年度に選定したリーディングプロジェクト の方向性	6
2-2 平成 30(2018)年度に選定したリーディングプロジェクト の施策	7
3. リーディングプロジェクトの内容	8
3-1 リーディングプロジェクト実施計画	8
【暮らし】	8
【都市の活力】	10
【環境】	12
4. 参考資料	
検討体制	14

はじめに 大田区交通政策基本計画について

計画策定の目的

大田区では、羽田空港跡地の整備、JR 蒲田駅・東急蒲田駅と京急蒲田駅間を結ぶ「新空港線」の計画など、まちと区内の交通が大きく変化しつつあります。

ライフステージの視点からみた交通の課題や大田区の交通の特性（地域別の交通、区内交通、広域交通の課題）を考慮するとともに、さらなる高齢社会の進展や巨大災害の危機、インフラの老朽化、地球環境問題などの課題にも対応することが求められています。

このような背景を踏まえ、大田区の目指す交通の姿とその実現に向けた取り組みなどを示す、区の総合的な交通の計画として平成 30（2018）年 3 月に「大田区交通政策基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定しました。

計画の対象

対象地域

- ・ **大田区全域**

対象とする取り組み

- ・ **人や物の移動に関わる施策**が広く対象
- ・ 交通に関わる施設の整備（ハード施策）だけでなく、交通サービスの利用、啓発や推進施策など（ソフト施策）も対象

計画の対象者

- ・ **区や交通事業者**のほか、大田区の交通に関わる**国、都、区民、地域団体、一般事業者、大学等の教育機関**なども対象

目標年次

目標年次を**平成 40（2028）年**としますが、これに縛られずにあるべき姿を想定します。

※年次の表記について：本計画策定時点において平成に代わる新元号が未定であるため、元号表記を平成のまま用いています。

第1節 リーディングプロジェクトの位置づけ

1-1 リーディングプロジェクトとは

リーディングプロジェクトは、基本計画で目標に掲げる『暮らし』・『都市の活力』・『環境』をキーワードとした3つの目標の実現に向けて、より重点的・先導的に進めていく事業です。

大田区交通政策基本計画の目標

暮らし	誰もが住み慣れた地域でいきいきと快適に暮らせる、移動しやすい交通環境の創造	
都市の活力	産業や仕事、人々の交流など、都市のにぎわいや活力を支える交通環境の創造	
環境	地球や都市、人にやさしく、安全・安心で持続可能な交通環境の創造	

リーディングプロジェクトの方向性

暮らし	生活に密着した 自転車 を通じて誰もが安全快適に過ごせるまちづくりを進めます。	誰もが円滑に移動できるまちづくりを進めます。	<u>ICT</u> を活用した総合的なまちづくりを交通から推進します。
都市の活力	新空港線 を整備し、区民や来訪者の移動を活性化させ、区内回遊性の拡大を目指します。	“ 空港臨海部 ”を次世代交通で支えます。	
環境	環境 にやさしい交通施策を推進します。	安全・安心で 災害に強いまちづくり に寄与する交通環境の充実を目指します。	

※平成31年度（2019年度）から実施するリーディングプロジェクトの方向性は太枠で囲った3点。（選定の手法はP6を参照）

1-2 リーディングプロジェクトの推進

平成 30（2018）年度は 7 つ方向性の中から 3 つの方向性を選定し、平成 31（2019）年度から事業を実施していきます。今回選定されなかった 4 つのリーディングプロジェクトについても、今後検討を重ねていきます。

リーディングプロジェクトは、平成 31（2019）年度から、基本計画の見直し時期である平成 35（2023）年度までの実施内容を記載した実施計画書を作成し、進捗を管理しながら確実に進めていきます。なお、平成 35（2023）年度には社会情勢や区民のニーズを反映しながら見直しを図ります。

また、複数の部局にまたがる事業により構成されているリーディングプロジェクトに関しては、必要に応じてプロジェクトチームを組織するなど、庁内における推進体制を整備していきます。

さらに、区、交通事業者だけでなく、区民、市民団体、大学等の教育機関、国、都などがそれぞれの役割に基づき、協力、連携することが求められます。各機関と情報共有し、議論を交わしながら、リーディングプロジェクトを進めます。

■ 区民などに期待される役割

- ・区民や町会・自治会、NPO 法人等は、交通の問題を自らの問題として考え行動するとともに、行政や交通事業者が行う取り組みに連携・協力することが期待されます。（例えば、自転車のルール遵守・マナー向上を一人ひとりが意識し、交通安全の意識を高めて交通事故を減らすことや、環境の配慮や渋滞解消の観点から、生活の足として公共交通の利用を増やすなどが考えられます。）

1-3 計画間の整合性

他の計画と大田区交通政策基本計画リーディングプロジェクトの実施計画書に重複して同一の事業が掲載される場合、本計画は関連する他の計画と連携・整合を図ります。

また、上位計画の内容が変更された場合や関連する法律が改定された場合は、必要に応じて本実施計画書に反映していきます。

■ 大田区交通政策基本計画に関連する計画

- ・おおた都市づくりビジョン
- ・大田区環境基本計画
- ・大田区自転車等利用総合基本計画
- ・大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針
- ・大田区移動等円滑化推進方針・推進計画 など

第2節 リーディングプロジェクトの選定

2-1 平成30(2018)年度に選定したリーディングプロジェクトの方向性
 選定したリーディングプロジェクトの方向性は、以下の3点です。

暮らし

LP1:生活に密着した自転車を通じて誰もが安全快適に過ごせるまちづくりを進めます。

都市の活力

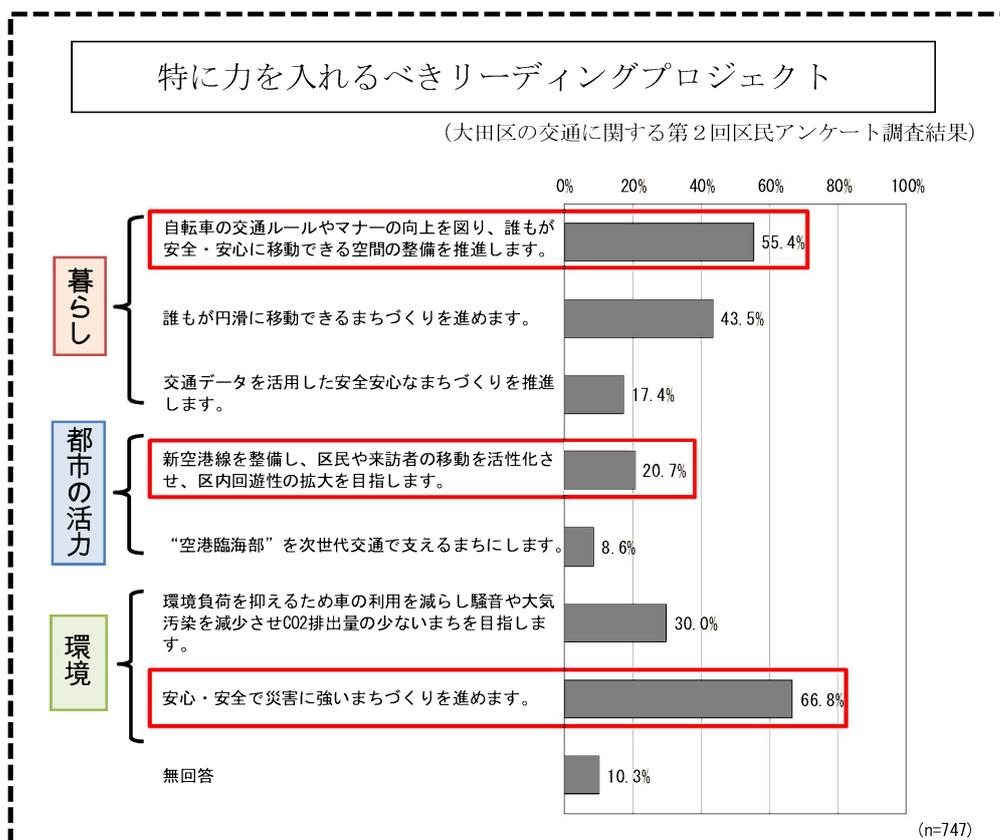
LP2:新空港線を整備し、区民や来訪者の移動を活性化させ、区内回遊性の拡大を目指します。

環境

LP3:安全・安心で災害に強いまちづくりに寄与する交通環境の充実を目指します。

リーディングプロジェクトの方向性は、主に以下の2つの条件により選定しました。

- ①「暮らし」、「都市の活力」、「環境」の各分野からそれぞれ1つ
- ②区民の意見を反映(下図を参照)



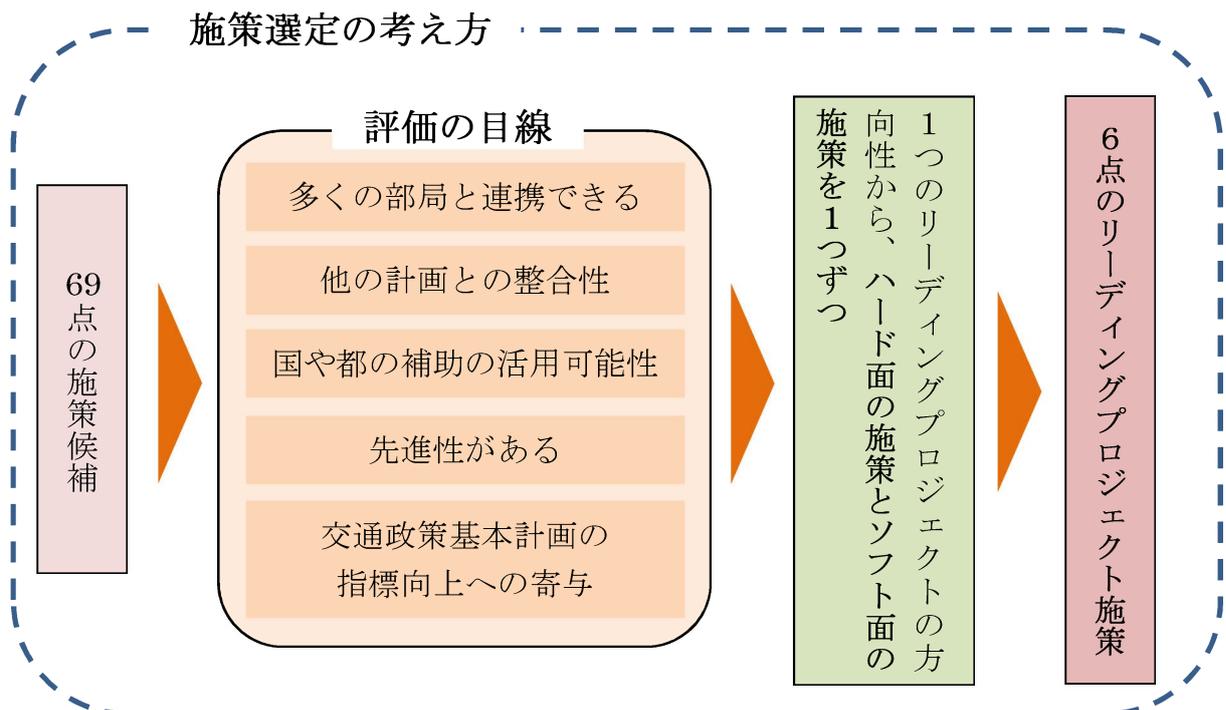
2-2 平成 30 (2018) 年度に選定したリーディングプロジェクトの施策

平成 30 (2018) 年度に選定されたリーディングプロジェクトの施策は以下の 6 点です。

暮らし	LP 1 - 1 : 自転車走行環境の整備 LP 1 - 2 : VR 等を活用した安全教育の検討
都市の活力	LP 2 - 1 : 新空港線とまちづくり LP 2 - 2 : 新たなモビリティの活用検討
環境	LP 3 - 1 : 都市計画道路の整備 LP 3 - 2 : 一斉帰宅の抑制の推進

施策を選定するにあたり、有識者をオブザーバーとする「大田区交通政策基本計画推進リーディングプロジェクト検討委員会(※1)」を3回開催しました。また、関係部局とプロジェクトチームを組織し、候補となった 69 点の施策に評価を付け、リーディングプロジェクトにふさわしい 6 施策を選定しました。

※1 「大田区交通政策基本計画推進リーディングプロジェクト検討委員会」の委員名簿は参考資料(P14)を参照



第3節 リーディングプロジェクトの内容

3-1 リーディングプロジェクト実施計画

- 【暮らし】リーディングプロジェクトの方向性
「生活に密着した自転車を通じて誰もが安全快適に過ごせるまちづくりを進めます。」

リーディングプロジェクト施策

暮らし

- LP 1-1：自転車走行環境の整備
- LP 1-2：VR等を活用した安全教育の検討

リーディングプロジェクトに取り組む主な部局

- ・福祉部 高齢福祉課
- ・こども家庭部 子育て支援課
- ・まちづくり推進部 都市計画課
- ・都市基盤整備部 都市基盤管理課
建設工事課
- ・教育総務部 教育総務課



(イメージ) 自転車走行環境の整備



(イメージ) VR等を活用した安全教育の検討

参考：リーディングプロジェクトの概略

ライフステージに応じた交通安全教育や啓発活動等を関係者等と連携しながら充実させます。

放置自転車対策や自転車等駐車場の整備を進めます。また、連続的な自転車走行環境の整備や他区との連携を視野に入れたコミュニティサイクルの事業推進などにより、交通ネットワークを構築し、誰もが安全・安心で快適に移動できる道路空間の整備を推進します。

実施計画書

LPの方向性:生活に密着した自転車を通じて誰もが安全快適に過ごせるまちづくりを進めます。

所管課	高齢福祉課、子育て支援課、都市計画課、都市基盤管理課、建設工事課、教育総務課	
事業概要	目的	自転車が安全で快適に走行できる自転車ネットワークを形成していく。同時に先端技術等を活用した先進的かつ効果的な交通安全教育を目指す。
	手段	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年3月に策定した「大田区自転車ネットワーク整備実施計画」に基づき、約170kmの自転車走行環境の整備を推進 VR等の先端技術を活用した、より先進的かつ効果的な交通安全教育の検討及び実施

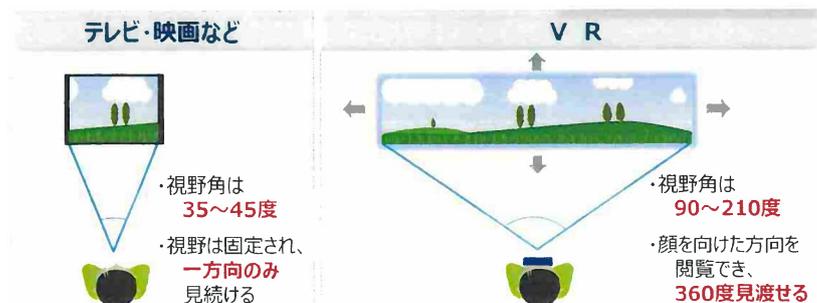
	目標 (2023年度末)	現状
	<ul style="list-style-type: none"> 大田区自転車ネットワーク整備実施計画に基づいた自転車走行環境全路線の約7割が整備されている。 VR等の活用方針を明らかにし、先端技術を活用した交通安全教育を子どもから大人まで実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 大田区自転車ネットワーク整備実施計画に基づき、約38kmの自転車走行環境が整備を完了しており、約170kmの早期整備に向けて、さらなる整備を推進している。 交通安全教育についてスクアードストレイト等を実施しているが、VR等の先端技術を活用した交通安全教育の実施例は少ない。
2023年度以降の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 大田区自転車ネットワーク整備実施計画に基づいた自転車走行環境整備が完了し、区内を安全で快適に走行できる環境が形成されている。 VR等を活用した効果的な交通安全教育を継続して実施しており、またVRを含めて常により良い交通安全教育の手法を検討している。 	

用語説明①：自転車走行環境とは・・・

自転車道、普通自転車専用通行帯、車道混在（ナビマーク・ライン）などの手法によって整備される自転車の通行部分を指す。

用語説明②：VRとは・・・

Virtual Reality の略。コンピュータによって作り出された仮想的な空間を現実のように知覚させるテクノロジー。人間の目に近い視野角やヘッドトラッキング（頭の動きを感知すること）により高い没入感が体験できる。



実施計画書

LPの方向性:新空港線を整備し、区民や来訪者の移動を活性化させ、区内回遊性の拡大を図ります。

所管課	都市計画課、都市開発課、環境計画課	
事業概要	目的	区内東西方向の鉄道相互間の連続性確保に向けて新空港線を整備し、移動利便性及び回遊性の向上を図る。 併せて、パーソナルモビリティや自動運転技術の活用等、新たなモビリティについて調査し、時代に沿った快適でエコロジーな移動環境の実現可能性を検討する。 また、新空港線の整備と合わせ、沿線のまちづくりを行い、都市機能の更新とまちの賑わいを目指す。
	手段	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の整備実現及び沿線のまちづくりに向けた関係者協議の実施 新たなモビリティの導入可能性調査の実施

目標(2023年度末)		現状
<ul style="list-style-type: none"> 新空港線整備が着手され、沿線のまちづくりにおける具体的なプロジェクトの検討熟度が高まっている。 環境に優しく、区内の回遊性向上に向けた次世代モビリティの検討熟度が高まっている。 		<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の事業化に向けた関係者協議を実施している。 蒲田駅周辺再編プロジェクトに基づく整備を進めている。 ※新たなモビリティの活用検討業務については未実施
2023年度以降の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 新空港線の開通に向け、第三セクターへの支援を継続的に行っている。 観光及び産業振興の側面からも新空港線を軸としたまちづくりを行っている。 次世代モビリティの開発動向を注視し、区に最適なモビリティの導入検討を継続して行っている。 	

用語説明③: 新たなモビリティとは・・・

超小型モビリティ、パーソナルモビリティ、ライドシェア、カーシェアリング、デマンド交通、自動運転、グリーンスローモビリティ、BRT、LRT など、ICTの発展等に伴い出現した、新しい交通モードや交通サービスのこと。



パーソナルモビリティ



自動運転バス

- 【環境】リーディングプロジェクトの方向性
「安全・安心で災害に強いまちづくりに寄与する交通環境の充実を目指します。」

🚧 リーディングプロジェクト施策

環境	LP 3-1：都市計画道路の整備
	LP 3-2：一斉帰宅の抑制の推進

🚧 リーディングプロジェクトに取り組む主な部局

- ・総務部 防災危機管理課
- ・区民部 戸籍住民課（災対区民部）
- ・産業経済部 産業振興課
- ・まちづくり推進部 都市計画課
- ・都市基盤整備部 都市基盤管理課
建設工事課



(イメージ) 都市計画道路の整備



(イメージ) 一斉帰宅の抑制の推進

参考：リーディングプロジェクトの概略

無電柱化、緊急輸送道路沿いの建物の不燃化・耐震化により、発災時の道路の安全性確保を目指します。抜本的な対策を含めた踏切対策を検討・実施することにより、誰もが快適でかつ安全・安心に生活できる環境をつくります。

災害後の生活維持のため、燃えない街づくりを区民と一緒に検討します。その際、まちづくり、防災、福祉、交通、景観等多様な側面から検討します。

実施計画書

LPの方向性:安全・安心で災害に強いまちづくりに寄与する交通環境の充実を図ります。

所管課	防災危機管理課、戸籍住民課、産業振興課、都市計画課、都市基盤管理課、建設工事課	
事業概要	目的	緊急物資の輸送、救援・救護活動のルート確保や市街地火災の延焼防止、安全な避難路の確保等を図ることにより、都市防災を強化する。また、災害時には道路や駅の混雑が発生しないようにする。
	手段	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区地域防災計画に位置づけられ、都市計画道路の第四次事業化計画に位置付けられた箇所の整備を推進 ・区内企業の一斉帰宅を抑制し、帰宅困難者対策を推進

	目標(2023年度末)	現状
	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路の整備が着実に進み、都市基盤の強化がなされている。 ・従業員の一斉帰宅の抑制や従業員用の備蓄を実施している民間企業が増加し、災害時における駅周辺や道路での大きな混雑が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度末時点において、都市計画道路が約52kmまで整備されている。 ・災害時の電柱等の倒壊による道路閉鎖を無くするため、都市計画道路の整備に併せ無電柱化を進めている。 ・一斉帰宅の抑制に協力する企業の募集を行っている。 ・鉄道事業者等と連携して帰宅困難者対策の訓練を行っている。
2023年度以降の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な都市空間の創出や、都市の活力・防災力の強化に寄与する都市計画道路の整備を、引き続き計画的に推進している。 ・災害時に備え、平常時から蒲田駅周辺滞留者対策推進協議会を中心として、災害時の一斉帰宅の抑制、一時滞在施設の確保、情報提供、徒歩帰宅者への支援及び支援物資の搬送が円滑にできるよう、継続して帰宅困難者対策を実施している。 	

■ 第4節 参考資料

資料：大田区交通政策基本計画推進リーディングプロジェクト検討委員会名簿

学識経験者

所属大学名	役職	氏名
東京工業大学	副学長（産学官連携）教授 環境・社会理工学院	屋井 鉄雄
首都大学東京	大学院都市環境科学研究科 観光科学域 教授	清水 哲夫

大田区職員

部名	役職	氏名
企画経営部	企画課長	山田 良司
	財政課長	梅崎 修二
総務部	防災危機管理課長	長沼 宏幸
地域力推進部	地域力推進課長	近藤 高雄
観光・国際都市部	観光課長	吉川 紀代司
区民部	戸籍住民課長	杉村 由美
産業経済部	産業振興課長	小澤 佳久
福祉部	福祉管理課長	張間 秀成
	高齢福祉課長	堀 恵子
	障害福祉課長	酒井 敏彦
こども家庭部	子育て支援課長	中村 純子
まちづくり推進部	都市計画課長	榊原 健司
	防災まちづくり課長	瀬戸 隆司
	都市開発課長	大木 康宏
空港まちづくり本部	空港まちづくり課長	鈴木 久夫
都市基盤整備部	都市基盤管理課長	保下 誠
	都市基盤計画調整担当課長	谷田川 泰
環境清掃部	環境計画課長	丸山 祐二
教育総務部	教育総務課長	森岡 剛



大田区交通政策基本計画
リーディングプロジェクト実施計画
(平成 31(2019)年度～平成 35(2023)年度)
平成 31(2019)年 3 月発行

発行
大田区まちづくり推進部 都市計画課
〒144-8621
東京都大田区蒲田五丁目 13 番 14 号
電話 : 03-5744-1111 (代表)
